# 繰り返し表現について

李奇楠（北京大学）

**要　旨**

繰り返し表現は隔たりのない繰り返しと隔たりのある繰り返しに分けられる。構造的には語や節や文レベルの発話にわたる。機能は意味による部分があるが、元の構成成分の意味の重なりや強調などが共通点だと言える。隔たりのある繰り返しは、「X は X だ」、「N のなかの N」の構文を中心に考察した。「X は X だ」の使用は、依頼やお詫びや拒絶や批判などのような発話機能を果たす配慮表現が見つかった。「N のなかの N」構文はカテゴリーらしいメンバーのことを取り立てて言う表現として、賞賛などの発話機能を発揮している。さらに、これらの繰り返し表現は中国語の用法と対照しながら構造･意味機能における共通点･相違点を分析した。

**キーワード**　繰り返し表現、発話機能、意味、「X は X だ」、配慮表現

## 1. はじめに

ことばはわたしたち人間の生活においては欠けてはならない存在である。人間の生活は言語生活そのものであると言っても過言ではないであろう。そのような言語のやり取り、コミュニケーションにはいろんな表現スタイルが存在している。繰り返し表現もその中の興味深いひとつであると言える。

本論文では、繰り返し表現はどのような表現を指すのか、何を繰り返しているのか、そのような表現を用いてどのような意味を表わすのか、どんな機能を果たしているのか、あるいはどのような発話行為を遂行しているのか、なぜそのような表現を使うのか、中国語の繰り返し表現との対照をかねて、以上のような問題を考察し明らかにする。

## 2. 「山々」のような表現

結論的に言うと、繰り返し表現は隔たりのない繰り返しと隔たりのある繰り返しに分けられる。

隔たりのない繰り返しは語（形態素）や同一発話の連続の繰り返しであり、隔たりのある繰り返しはその名のとおり、同一構文における同一語の非連続の繰り返しを指すと言える[(1)]。

隔たりのない繰り返しすなわち語（形態素）や発話の繰り返しにはいわゆる畳語と畳語形（畳語的表現）の用法がある。この二つの繰り返し用法に関しては、それぞれ分けて考察する。

畳語は、「山々」「人々」「時々」などのようなことばである。もともと、「山」「人」「時」のような独立語があり、それを繰り返して使うようになり、定着してきて、文法化の度合いがきわめて高いから、辞書にも語彙項目として収録されることが多い。

品詞性の角度から、その代表的構成パターンおよび表わされる意味を以下のように挙げておく。

①N＋N→複合名詞……多数性を表わす。基本的には漢字一文字の繰り返しである。

山やま、人びと、品じな、国ぐに、家いえ、村むら

②N＋N→複合副詞……時間の頻度などを表わす。こちらも基本的には漢字一文字の繰り返しである。

時どき、常づね、日び、刻こく

③V（マス・ル）＋V（マス・ル）→複合副詞……同じ行為、事態が繰り返されることを示す。後に続く動詞の連用修飾句になる。

泣き-なき　生き-いき　のびのび、思い-おもい　重ね重ね

恐るおそる、返すがえす（こちらは動詞のル形を重ねるもの）

④A（イ形容詞の語幹）＋A（イ形容詞の語幹）→複合副詞……性質や状態の強調の意味となる。

長なが、ちかぢか、ひろびろ、くろぐろ、たかだか

上記のように、同じ名詞が繰り返された後、品詞性が変わらないもの（①の「山やま」など）と品詞性が変わるもの（②の「時どき」など）がある。動詞の場合、動詞のマス形の繰り返し（③「生き-いき」など）と動詞のル形の繰り返しがあり（③「恐るおそる」など）、品詞性の変化が生じ、複合副詞となった。形容詞の語幹の繰り返し（④「長なが」など）の類はいずれも副詞として使われている。さらに、「まだまだ」「ただただ」のような副詞の繰り返しや「あらあら」「まあまあ」などの感動詞の繰り返しもある。こちらはいずれも繰り返された後、品詞性は変わらない。驚いたりあきれたり感嘆したりするときに発することばである。たとえば、次のような用例である。

（1）戦争やテロによって、人間の権利も自由も侵害されています。貧困の問題も解決されていません。人類にとってまだまだ[2]多くの課題が目の前にあります。学問の力によって、人類を前進させることができるのか。人類を前進させる技術を前へ押し進めるためには何が必要なのか。大学として常に問い続けなければなりません。

（http://www.meiji.ac.jp/gakucho/speech/president.html2016 年 10 月 22 日参照）

（1）の「まだまだ」は課題の多いことを強調している。中国語では、“还还”のような、いわゆる副詞「まだ」の意味を表わす副詞“还”の繰り返しはここでは使えない。副詞“还（まだ）”と存在動詞の“有（ある）”との組合せで“还有还有”のような言い方になっているであろう。“还还”だけの繰り返しだと、どもっていると理解される。

また「ながながしい」のように接尾辞「-しい」をつけて派生語となるものもあり、「ひやひやしている」「満ち満ちている」のような繰り返しの派生語も見られる。出自から見れば、もともと名詞、形容詞あるいは動詞だが、繰り返され、接辞の付着を経たあと、品詞性が変わるものもある。意味の重ねや強調が中心となっていて、日常生活では下記（2）のように使われている。

（2）橋本大二郎氏からは「どの辺が魅力ですか？」と更に突っ込まれると「女優をやっているけど、休業して絵に専念してるんですが、自分のオリジナルな世界つくれること。それが魅力だと思う」と男らしく明言。大下アナウンサーから「猪瀬さんの顔から幸せが満ち満ちています」と指摘され、顔を真っ赤にしていた。

（http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20161020-00000043-dal-ent）

### 3.「一杯一杯」のような表現

上記 2 と同じ、隔たりのない繰り返し用法だが、2 のような固い結びつきとなった慣用的用法である畳語とは違って、その場その場における語の個性的繰り返し表現である畳語的表現[3]である。この類は使用頻度が高いものもあるが、音節の数が多いためか、幅広い生産性なのか、辞書には取り入れられないのがふつうである。単なる列挙や、意味の積み重ねで強調を示す繰り返し用法となっている。

(3)「家族の一員である大切なノーブリー君がいなくなってしまったのは、皆、心にぽっかりと穴があいたような感じですが、母がまだ呆然としている様子なので心配です」と母を気遣い。「多くの人を癒やしてくれてありがとう。一生、一生、忘れません　本当に本当にありがとう　先に天国に逝った猫ちゃんたちとたくさん遊んでね　愛と感謝をこめて　安らかに…」と結んだ。

（http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160725-00000057-sph-ent）

（3）にある「一生、一生、」「本当に本当に」は「一生、忘れないこと」（時間の長さ）と感謝の意味（感謝の真意）を、強調している。「一生」は名詞でもあるが、ここでは時間副詞として使われている。副詞の繰り返し表現はたとえば「段々　段々　体力がついてきました」などのような表現が見られ、理論上、どの副詞も繰り返される可能性がある。ちなみに、（3）と同様、中国語にも同じような繰り返しの畳語的表現が使われることになると言える。つまり、“一辈子、一辈子（=「一生、一生」)”、“真的真的（＝「本当に本当に」)”のような用法である。

(4) 母校でも祝福ムード一色で、花田校長は「皆さん、気がついたかどうか知りませんが、愛ちゃんの指には、キラキラキラキラ光るものがありました。おめでとうございます。どうぞ、お幸せに」と話した。

……

退場の時には、男子生徒に囲まれ、「愛ちゃんコール」が巻き起こる場面もあった。母校の温かさに触れ、終始、笑顔、笑顔の福原選手だった。

（http://headlines.yahoo.co.jp/videonews/fnn?a=20161021-00000703-fnn-soci）

（4）の「キラキラキラキラ」はオノマトペの「キラキラ」の２回繰り返しであり、福原愛選手の結婚指輪の輝かしさを強調している。その次にある名詞「笑顔」の２回繰り返しは連体修飾語として「福原選手」の直前に置かれ、ずっと笑っている状態を示している。オノマトペは日本語のほうははるかに多くて、この場合での中国語らしいオノマトペ表現はおそらく“亮闪闪亮闪闪”になるが、日本語ほど慣用的繰り返し表現ではないような気がする。“闪闪发光”のような四字熟語でも表わせるであろう。なお、後者の「笑顔、笑顔」に関しては、中国語ではこのばあい、日中同形語の“笑顔”があるが、“笑顔笑顔”のような繰り返しはふつう使わないであろう。“始终笑容灿烂”のような副詞“始终（=「終始」)”との共起があれば十分であると思う。

（5）中居正広「今夜のお客様は、強い強い女性のみなさんです」

（SMAP×SMAP 20161017）

（5）は形容詞「強い」の 2 回繰り返しである。その「女性のみなさん」はリオ五輪の金メダリスト銀メダリストの女子レスリングのみなさんを指すので、道理で一個の「強い」ではちょっと物足りないだろう。ここでの連体修飾用法は中国語のばあい、一音節や二音節の形容詞が繰り返されるとき、程度副詞との併用が多い。この（5）は“非常厉害非常厉害（=「強い強い」）”となるであろう。

（6）山崎賢人「一目惚れ」
桐谷美鈴「えっ！」
山崎賢人「違う！違う　違う！！」

（SMAP×SMAP 20160801）

（6）は動詞「違う」の 3 回繰り返しの発話である[4]。話し手の強い否定の気持ちを表出している。「違う！違う！違う！」は語の繰り返しであるが、厳密に言うと一語文の繰り返しである。隔たりのない繰り返しは形態的には、語彙以外に、動詞て形のような表現、文の成分や文全体の繰り返しも含まれる。たとえば次の用例である。

（7）「頑張って、頑張って、頑張って、今日、とうとう地球のてっぺんに辿り着きました。」（『THE テレビ伝説 60 年史』CM の表現）

（8）冬真「どうしたら　いいんだろう。
名前も分かんなくてさ　でも　すっげぇ　カワイイんだよ。
俺　もう　会いたくて　会いたくて　震えてます！」

（『好きな人がいること』04）

（9）「先生　教えて　教えて　教えて！」

（『グラメ！～総理の料理番～』03）

同じ動詞て形の繰り返しであるが、（7）（8）は連用修飾成分いわゆる副詞のような文の成分としての繰り返しである。（9）の「教えて教えて教えて」は独立性の強い、動詞述語文のような発話であり、依頼の行為を遂行している。この繰り返しの使用はここでは、依頼の意味を強調している同時に、相手に甘えることの意味の強調でもある。

（10）冬真「俺のこと　待っててくれたって？　名前　聞いていい？」
愛海「西島愛海（にしじままなみ）です」
冬真「マーニー」
愛海「愛海（まなみ）です。」
冬真「愛海ちゃんね。名前も　カワイイね。年、幾つ？」
愛海「21 です」
冬真「えっ　俺も　俺も　俺も　俺も！そっか　タメか。何か　運命的だね」

（『好きな人がいること』04）

（10）のなかの「俺も」は「俺も 21 歳です」の省略的表現であるが、上記のような文脈で、りっぱな発話の単位として成立すると言えるであろう。「一人称代名詞＋取り立て助詞」の文法構造であるが、そのような文の成分のような発話は 4 回も繰り返される用法で、話し手の聞き手への超共鳴・超同感の意を間接的に表出でき、相手への好意が満ち満ちていることが十分読み取れる（聴き取れる）。

（11）コーヒーを持ってきてくれた警備員:

「あ、すみません すみません すみません　コーヒーを、さっき平（ひら）さんと約束した だから持ってきただけで、なんも見てませんよ。あれ、最近目が悪くなってきたな。白内障で、なんも……」　　（『家族はつらいよ』2016）

（11）では、話し手の警備員はお詫びの発話「すみません」を 3 回繰り返して、謝罪の意味を強調している。若い男女の二人の抱擁キスシーンにぶつかっちゃって、話し手自身の照れもあり、相手のお二人のことを気遣って、「じゃまされたくない」という聞き手側のネガティブフェースを配慮して、もう挽回できない話し手自身の行為へのせめての「罪滅ぼし」の補強のストラテジーとして使われるお詫び発話の繰り返し表現となっている。日本語らしい配慮表現であろう。中国語のばあいも“对不起对不起对不起”と言うから、日中共通の配慮の発話だと言える。

（12）水田:あっ　常子さん　取りますよ。
常子:あ…　ありがとうございます。
水田:潤。こういうときにな　す～っと　女性に気を遣えるかどうかがモテるかどうかの分かれ道だからな。どうぞ。
常子:ありがとう。
潤　:あっ　そう。
水田:おい　真面目に聞いておきなさい。大事なことだぞ。なあ？
南　:そう…ですね。
水田:まあ　この家に育てば　いやおうにも身につく事になるか…。
女性 A:どういう意味よ　それ！
女性 B:それじゃ　私たちが無理やりやらせてるみたいじゃない。
水田:いや…違う違う違う違う！ごめんごめんごめん…ごめん！ほら…謝ってよ。
潤　:僕は謝りませんよ。言ってないですもの。
水田:潤…怖いぞ。アハハハハ！

（『とと姉ちゃん』最終週第 156 回）

（12）では、話し手である水田（男性）は、聞き手である強い女性の家族たちに誤解されないように一生懸命弁解して、謝っているとき、繰り返し表現を使っている。相手の誤解を否定する意味の「違う」とお詫びの「ごめん」の繰り返しの使用である。女性の家族側への配慮表現でもある。具体的に言うと、相手の好かれたいというポジティブフェースを配慮する上でのポライトネスのストラテジーとして使われていると考えられる。

（11）（12）と同じようなセンテンスごとの繰り返しの発話はたとえば、感謝の「ありがとうございます、ありがとうございます、ありがとうございます」、懇願の「お願い、お願い、お願い」なども今回の考察で見つかった。また、同じ謝罪行為の発話機能であるが、（11）の「すみません」の繰り返しの発話と（12）の「ごめん」の繰り返しの発話とが形態的に違う。さらに、日本語には「すまん。すまん。」のようなお詫びの繰り返し表現の発話もある。これに対し、中国語のばあい、どちらも同じ表現の“对不起”の繰り返しでよいであろう。日中対照してみて、日本語のほうは家族同士かどうか、知り合いかどうかなどのような人間関係の差による異なる発話を使い分ける傾向が強いと言える。

上記のような詫びる行為や感謝する行為以外に、慰める行為の「もう気にしない。気にしない。」(婚活パーティーで失敗した息子に向かって、母親の発話)、気持ちを表出する行為の「なぜ死んだんだ。なぜ死んだんだ。」(父親が若死の息子の墓の前で)、「ずっと会いたかった。ずっと会いたかった。」(男性主人公が女性主人公に向かって)などなどのような繰り返し表現がある。発話機能がそれぞれ違うが、繰り返し表現の同一スタイルを使用している。形の重複は意味の重なりにもなる。繰り返し表現において、意味加重の共通性が働いていると言えるであろう。

## 4.「X は X だ」のような表現

2 と 3 では、隔たりのない繰り返し用法について論じたが、この 4 では隔たりのある繰り返し表現を考察してみる。隔たりのある繰り返し表現は、いわゆる「子どもは子どもだ」「年齢は年齢だ」のようないわゆる同語反復文亦の名はトートロジーが中心になっていると思う[5]。

効率的コミュニケーションをするため、グライスの「協調の原理」及び関連の各カテゴリー(量、質、関係、様態)の各格率を守ることは、言語生活の常識かもしれないが、グライス自身も論じたように、言外の意味における「協調の原理」の遵守は多々ある。下記グライスの『論理と会話』に書いてある関連の論述を引用する。

> 量の第一格率が極端な形で無視される例を提供してくれるのは、「女は女だ」とか「戦争は戦争だ」といった明白な同語反復の発話である。私の考えでは、私の好むいみでの《言われた事柄》のレベルでは、それらの発言が持つ情報量はゼロであり、だからそのレベルでは、これらの発言はどのような会話のコンテクストでも量の第一格率に違反せざるをえない。もちろん、それらの発言は、含みとされた事柄のレベルでは一定の情報を担っている。そして、このレベルでの情報内容を聞き手が同定できるかどうかは、話し手がなぜ特にこの明白な同語反復を選択したのかを聞き手が説明できるかどうかに懸かっている。(『論理と会話』48－49)

「協調の原理」より、配慮のほうが優先するとき、「非効率」的言語手段を取るしかないだろう。つまり、『ポライトネス』にも論じられた FTA(face-threatening act フェイス威嚇行為)との衝突で、協調の原理にわざと(あるいは、やむなく)違反することになってしまい、その違反を通して、聞き手に何らかの真意を探らせ、真の理解(言外の意味)を求めさせる。協調の原理を破る発話は聞き手への真の理解のヒントでもある。配慮の必要があるからこそ、量の原則などに違反する発話をするしかない。情報量ゼロの同語反復文の用法はまさにその典型的な発話のタイプである。

### 4.1.「X は X だ」について

隔たりのある繰り返し表現は、「X は X だ」がもっとも典型的構文タイプである。いわゆる「情報量ゼロの同語反復」表現であるが、その表現自体が聞き手にとって推理のヒントとなり、話し手の本当の意図を考えるように促すベースである。以下、具体的用例を取り上げながら分析してみる。

(13) ＃VIOLENCE　IS　VIOLENCE

暴力は暴力だ

（世界の感動メッセージ映像 イギリス　DV　被害支援の PR 映像
男性の DV 被害者支援団体）

（13）の「暴力は暴力だ」は一見、なんの新しい情報も提供していないが、暴力は許せないことは人間生活の常識でもあるので、「暴力は許せない」「暴力は反対」「暴力は言語道断」のような言外の意味が推測されるであろう。さらに、男性の DV 被害者支援団体などのこの発話の場にまつわる語用論的要素を視野に入れて考えると、性別とは関係なく、男性への暴力も許せないという真の意味が理解できるであろう。

（14）男性社員「日向さま　弊社売買仲介営業課チーフの三軒家でございます」
三軒家　「はじめまして　三軒家です」
男性社員「あの　もしかして　キャビネットコート永田町 708 号室のお申込みって終わってしまったとか？」
三軒家　「終わりました」
日向　　「しっかりしなさい　申込書に法的拘束力なんかないんだから」
三軒家　「おっしゃる通り　法的拘束力はございません。でも、順番は順番です」　（『家を売るオンナ』05）

（15）日向　「あのマンションは私が住むべきです」
三軒家「お気持ちは分かりました。でも、順番は順番です。わたしが申し上げられるのはそれだけです。」　（『家を売るオンナ』05）

（14）も（15）も「順番は順番です」の発話がある。「順番は変えられない」の意味を強調していることがわかる。なおここでのコンテクストからわかるように、お客さんの無理な要求をこの同語反復文で断っているのである。拒絶の結果（機能）は変わらないが、直接の拒絶発話よりだいぶ配慮的な発話となっていると言える。さらにこの発話の前後には、聞き手の見方に同意する発話（「おっしゃる通り」）、聞き手への理解を示すポジティブポライトネスストラテジーの発話（「お気持ちは分かりました」）、話し手自身の発言権の限定を示すことば（「わたしが申し上げられるのはそれだけです」）の使用を通して、いっそう配慮的度合いを高めることになっている。もちろん、セールスマンとお客さまとの人間関係からの制限を受けているかもしれないが、相手への気遣いには嘘がないと言える。

（16）女性社員「課長　最近　三軒家チーフに似てきましたね。さっきも『ゴー！』とか言っちゃって。」
課長「僕は僕だよ　誰のマネもしてない。」　（『家を売るオンナ』05）

（16）は「僕は僕だよ」で相手の意見に賛成しないことを表わし、「三軒家チーフに似てきていない」という相手の見方を否定する発話のかわりに、同語反復文である「僕は僕だよ」の使用で、否定文より、肯定的で単なる情報量ゼロの文の使用およびその後の「誰のマネもしてない」の汎論的論述のほうがもっと説得力があり、個別的直接否定より、思いやりのある配慮的表現であろう。

（17）女性社員「課長！辞めろって言われました！」
課長「それしかない時はそれしかないね。」　（『家を売るオンナ』05）

（17）の下線の部分は上司の課長より部下の社員に向かっての発話である。「それしかない

時はそれしかないね。」は情報量ゼロ等しいの文であり、上司の部下への最大限の配慮の発話かもしれない。本来は同じ意味機能だが、命令の「辞めろ」と比べたら、こちらのほうは、仕方がない、相手が気の毒だという話し手の思いが、相手の立場に立って発話する気遣いが読み取れる。

（18）中居正広「都知事になってもう 2 か月ですか。この 2 か月間いかがでしたか。想定内ですか」

小池都知事「想定内と言えば想定内だし　想定外と言えば、いや、あのこんなたくさんぼこぼこ出てくるとは思わなかったですね。」

（SMAP×SMAP「都知事就任 2 か月を振り返って」 20161003）

（18）における「想定内と言えば想定内だし」のトートロジーの繰り返し表現は、話し手小池百合子都知事のタレント司会者の中居正広の質問への回答の最初の部分であり、聞き手の考えに沿って、まず認める、協調態度の表明をする配慮表現となっている。その後の発話からじっさいは想定外のことが多かったので、決して想定内ではないことがわかる。

（19）社長「世間はそう好意的には見ませんよ」

総理「世間がどう思おうと、事実は事実です」

（『グラメ！～総理の料理番～』07）

（19）の「事実は事実です」は情報性ゼロの同語反復文の使用で、自分の意見を堅持する強い意志を表わしている。と同時に相手の考えに不賛成することの否定的意見の配慮表現でもあろう。

（20）社長「実は　次の東京都知事選ですが　また　立候補したいと考えておりますつきましては　ぜひ総理のご支援を頂きたい」

総理「以前　立候補なさった時　確か　野党の推薦を受けていたと記憶していますが」

社長「フフフ…ですが、やはり　野党は野党」

（『グラメ！～総理の料理番～』07）

（20）の「野党は野党」は言外の意味としては、野党は与党と違って、力が弱いほうだという話し手のマイナス評価であるが、情報量ゼロの同語反復文である「野党は野党」ははっきりしたマイナス評価を避けた配慮のストラテジー表現である。

（21）「でも、まッ　いっか　外は外で　色々ありますもんね」

（『せいせいするほど愛してる』6）

（21）の「外は外で」は、外にもいろいろ面倒なことがあるという意味を表わし、ここでは外食をやめる理由となっている。言い訳として使われている同語反復文である。

### 4.2.「N のなかの N」について

構文的には「X は X だ」のような隔たりのある繰り返し表現以外に、構文レベルあるいは節レベル的使用の「N のなかの N」および「N 中の N」もよく見られる。

（22）『論語』は孔子を中心とする言行録である。それは、『大学』『中庸』『孟子』とならぶ「四書」の筆頭として、中国はもとより、われわれの祖先の血肉となりバックボーンともなった、古典のなかの古典である。　（『論語』1999:3）

（22）における「古典のなかの古典」は、古典がたくさんあるが、そのなかでもっとも古典と称せられるほうを指すばあい使われる賞賛の意味の表現である。ある同じカテゴリーのなかでいちばんそのカテゴリーらしさを持つ所属のメンバーを取り立てて言うばあい使うレトリックだと言える。このようなスタイルの表現は基本的には、賞賛の意味を表わす繰り返し表現である。

上記「古典のなかの古典」以外には、「N 中の N」の言い方もある。たとえば、「名店中の名店」「プロ中のプロ」「とっておき中のとっておき中のとっておき中のとっておき」(『せいせいするほど愛してる』) などの具体的用法がある。これは、日本語には音読みと訓読みの使い分けがあり、訓読みの「N のなかの N」と音読みの「N 中の N」の二種類の変異形になったわけだと考えられる。さらに「入門の入門」[6]のような「N の N」という言い方もあり、「の」格だけ挿入し、その前後同一名詞が繰り返えされ、すこぶる簡潔な言い方であろう。この「N の N」のようないわゆる「の格用法」は、現代中国語の“N 的 N”用法、たとえば“经典的经典（=古典のなかの古典)” “基础的基础（=入門の入門)”になるだろう。

## 5. おわりに

本論文は、語や文レベルの繰り返し表現について、中国語との対照も兼ねて日本語を中心に考察した。

日本語と同じように、中国語にも、名詞、動詞、形容詞、副詞、オノマトペの繰り返しいわゆる畳語の現象が存在している。ただ、繰り返す方法は日本語の単純な語ごとの繰り返しの同一パターンと比べて、一文字構成の語のばあい単純な繰り返しであるが、それ以外はまた、いくつかのパターンがある。たとえば、形容詞の“干净（＝きれい)”→“干干净净”、“清楚（＝はっきり)” →“清清楚楚”、“大方（＝堂々とする)”→“大大方方”のような“AB”式からの“ABAB”ではなく、“AABB”のような繰り返し表現となっている。

また、日本語のばあい、多数性を表す「N＋N→複合名詞」に関しては、日本語の「人びと」「家いえ」と同じように、中国語にも“人人”“家家”のような全く同じ形の繰り返し表現があるが、ただ、「山やま」のような複合形は中国語では、そのような一文字の繰り返しではなく、別の多数性を表す“群山”のようなことばあるいは他の類義語との組み合わせで、“山山水水”のような四字熟語的な繰り返し表現も使われている。日本語の「V＋V」の「泣き-なき」「恐るおそる」などは中国語では、“哭哭啼啼”“战战兢兢”のような慣用形の四字熟語を使うのがふつうである。

（23）日は傾きかけ、山々は霞に包まれていた。/红轮西坠，群山笼罩在晚霞之中。

（金閣寺 （原文）/金阁寺（訳文））

(24)古いチーズを置いてやると何匹かは近くに寄ってきておそるおそる食べました。

/我拿出几块吃剩下的干酪后，有几只便挪步上前，战战兢兢地吃了下去。

（ノルウェイの森 （原文） /挪威的森林（訳文））

中国語の同語反復構文の使用は歴史が長い。紀元前 200 年ごろの古典『論語』には、次のような繰り返し表現が使われていた。

（25）知之为知之，不知为不知，是知也。/（これを知るをこれを知ると為し、知らざ

るを知らずと為せ。是れ知るなり。<知ったことは知ったことと、知らないことは知らないこととする、それが知るということだ。>)　　(『論語』1999:43)

また、通時的に見ると、七世紀の李白の詩にも繰り返し表現が使われていた。“两人对酌山花开 一杯一杯复一杯（= 両人対酌すれば山花開く、一杯 一杯 復た一杯。)”である。ほぼ同じ時代の日本の『万葉集』[7]にも繰り返し表現の詩が見られる。つぎの（26）である。

| | |
|---|---|
| (26) よき人の | よい人が、 |
| よしとよく見て | よいとよく見て |
| よしと言ひし | よいと言った |
| 吉野よく見よ | 吉野よく見よ |
| よき人よく見 | よい人よく見よ |

(『万葉集』上:8)

私たちは誰かに何かを依頼するとき、配慮表現をよく使うであろう。

(27) 你教我！

你教教我！　　(朱 2007: 67)

中国語では、(27) にある動詞“教（=教える)”の繰り返し用法“教教”は相手に教えてもらうとき、非繰り返し表現のもとの動詞“教”より語気的には柔らかくなっている。非繰り返し表現の“你教我！”はストレートで命令的依頼として使うが、繰り返し表現の“你教教我！”は懇願の意味が強くなり、日本語の「お願い」の意味合いが入っている。日本語にも“教えて教えて”のような繰り返し表現があるが、甘えることができるような横の関係の近さの表明だと言えるであろう。この点において、この例に関しては共通点があると言える。そのうえの（25）の中国の古典『論語』における同語反復文の“知之为知之，不知为不知，是知也。(これを知るをこれを知ると為し、知らざるを知らずと為せ。是れ知るなり。)”は、いま、学問における誠実さの戒めとして、相手への忠告や指摘のときの配慮表現として、よく引用されている。情報量ゼロの文であるが、心に響いてくる深みのある発話である。

(28)「大丈夫ですか？」「大丈夫　大丈夫」

上記（28）の繰り返しは、話者の聞き手への配慮が読み取れる。相手に心配させたくない気持ち、相手に安心させたい気持ちは、一個だけの使用より、強いように聞こえる。このような用法に関しては、中国語も同じことが言える。

**注**

(1) じっさい、文レベル以上のコンテクストレベルにおける隔たりのある繰る返し用法は、さらなる広い言語視野であるディスコースの分析となり、スペースの関係で割愛する。

(2) 下線は筆者によるものである。以下同様。

(3) このような繰り返し表現は以下のように「畳語形」と呼ばれることもある。

畳語形「いついつまでも仲よくね」,「何々を食べたと記録しておく」,「旅行で回ったのはどこどこだ？」などは，強調・列挙などの意味が加わる。

(『日本語教育事典』115)

（4）中国語では、このような場合、形容詞の否定表現（“不对”）の 3 回繰り返しになるだろう。要するに、“不对不对不对（=「違う！違う！違う！」)”のような発話であろう。

（5）次のような例についてどう考えればよいかというと、やはり隔たりのある繰り返し表現であろう。

宮沢「俺がそばにおる　ずっと未亜のそばにおるから　好きや　ホンマにめっちゃ好きやねん」　（『せいせいするほど愛してる』6）

ただ、注（1）にも書いてあるように、上記の発話は、構文レベルを超えて、ディスコース次元の広い視野からの考察が必要なので、またの機会で更なる検討を考える。発話機能の立場から言うと、ここのこの隔たりのある繰り返し表現は、話し手の気持ちの表出を強く示し、聞き手への愛の気持ちの告白を力強くしていると言える。グライスの様態のカテゴリーの格率に違反しているが、それでもあえてこのような繰り返しの発話をするのは、話し手の聞き手への愛の強い表明の意図があるからであろう。

（6）たとえば、『日本語学』2005 年の 4 月号には金水敏の「日本語学の入門の入門―何からどう学びはじめるか―」の論文があり、その論文のタイトルには「入門の入門」が使われている。基礎の基礎のような内容だという意味であるが、執筆者の謙遜の態度も読み取れる。一種の品のある配慮表現でもあろう。

（7）よく知られているように、『万葉集』は、7 世紀後半から 8 世紀後半にかけて編まれた日本に現存する最古の和歌集である。なお、短い詩だが、一つのまとまったコンテクストにおける使用例となっていて、ディスコース分析の対象になる好例でもある。

**参考文献**

小川芳男･林大他編集（1982）『日本語教育事典』大修館書店

金谷治訳注（1999）『論語』　岩波文庫

小池清治他編集（2002）『日本語表現・文型事典』朝倉書店

小泉保（1997）『ジョークとレトリックの語用論』大修館書店

仁田義雄・尾上圭介他編集（2014）『日本語文法事典』大修館書店

松枝茂夫編（1984）『中国名詩選』岩波書店

水谷修・加藤清方他編集（2005）『新版　日本語教育事典』大修館書店

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現』明治書院

朱德熙（2007）《语法讲义》商务印书馆

Brown, P. & S. C. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.（邦訳：田中典子監訳（2011）『ポライトネス－言語使用におけるある普遍現象』研究社）

Paul Grice(1989) *Studies in the Way of Words:* Harvard University Press.（邦訳：清塚邦彦訳（1998）『論理と会話』勁草書房）

（李奇楠、北京大学外国語学院副教授、liqinan@pku.edu.cn）